

「外国人のためのそろばん講座」
講座の歩みとエピソード



(一・社)大阪珠算協会／大阪商工会議所共催

目 次

英語版講座案内	2
日本語版講座案内	3
国別受講生数一覧	5
学ぶことの多い「外国人のためのそろばん講座」の展開	7
マスメディアの反応	9
検定試験への挑戦	9
外国人のそろばん観	11
母国での広がり	13
出張授業ならびに集中授業	15
各地から珠算指導者が講座見学に来訪	17
大商大西正文会頭の見学と懇談会開催	19
異業種交流「波路(ハロー)会」への講師派遣	19
優良生徒表彰式典での修了証授与と新年弾き初め大会への参加	21
講座の移動開催	23
ラジオトークで外国人がそろばんを語る	25
中国訪日視察団の講座見学	27
JICAのトンガ王国派遣そろばん講師養成に協力	29
受講生のそろばん研究	31
タイ王国教育省視察団との懇談	33
当該講座の展開を関係部局に説明	35
ホームステイで3週間の集中授業	35
受講生のさまざまな活動	37

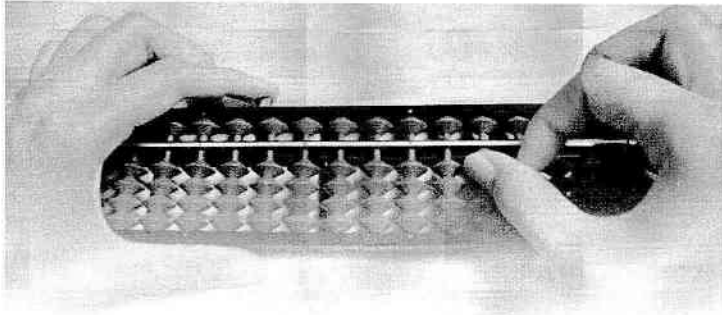
Abacus (Soroban) Classes for Foreigners

- An element of traditional Japanese culture -



Are you looking for a new and interesting hobby?
How about practicing SOROBAN, the Japanese abacus?

* Individualized lessons are provided in English and Japanese *



Our purpose is to increase awareness and understanding of Japanese culture and to promote friendship and goodwill throughout the world. We have offered abacus courses free of charge exclusively to foreigners since June 1986, with individualized lessons provided in English and Japanese. 1020 people from 92 countries have participated in the course.

Time: On Saturdays, from 10:00 AM to 12:00 noon

Place: 5th Floor of the Osaka Chamber of Commerce and Industry Building (Osaka Shokokaigisho), near Sakaisuji-Honmachi station on the Chuo subway line.

Fees: FREE (including abacus and course materials).

To join our classes, please contact:

Ken Moritomo: ken_moritomo@nifty.com

Phone: 06-6572-6877

Mobile: 090-1960-1682

(You can call between 3:00 PM and 11:00 PM)



Classroom



Abacus New Year's dedication ceremony



Outdoor events

For more information, check



<https://sites.google.com/site/osakasoroban/>



on.fb.me/N1xIAY



Sponsored by the Osaka Chamber of Commerce and Industry
and the Osaka Abacus Association



『外国人のためのそろばん講座』

■いつから始まったのですか

1986年6月にスタートしました

■いつ、どこで開かれていますか

毎週土曜日 10時～12時まで / 大阪商工会議所5階の
大阪珠算協会事務局です

■講座の目的は何ですか

外国の方々に、素晴らしい日本の計算文化「そろばん」
を体験・習得してもらうためです

■誰が指導するのですか

大阪珠算協会員の先生方がボランティアで指導します



■今までどれくらいの外国人が 受講していますか

97か国から1207名が受講しています

■外国人でもそろばんが上手に なりますか

初段～3級の上級検定試験に約75名が合格。

4級～6級は約360名が合格。

暗算1級～6級は約110名が合格しています



大阪商工会議所・大阪珠算協会共催

■読上算や読上暗算も練習しますか

毎回、英語で読上算と読上暗算を練習します

■指導は日本語ですか

原則、英語で指導します

■みなさん、九九を覚えていますか

100%の方が九九を覚えています



■そろばんを学習する動機はなんですか

異質な計算技術「そろばん」に対する好奇心、
500年間続く日本の伝統計算文化に対する興味、
デジタル化社会への不安などです

■そろばん学習から、何を学ぶのでしょうか

現代社会は、結果最優先、スピード重視、手順を省く合理性の追求がはばをきかずデジタル化の時代ですから、神から与えられた人間力（体力・思考力・五感）の低下が懸念されています。

そろばん学習を通じて、持って生まれた人間力（とくに思考力・五感）を使って行う計算のノウハウを身に付けることができる、暗算ができるようになる、集中力が高まる、情緒も安定することを学び、アナログの大切さを再認識するようです

■申込: Please contact : Ken Moritomo

ken_moritomo@nifty.com

Mobile : 090-1960-1682



国別受講生数一覧(トップ20)

順位	NATIONALITY	国 籍	参加者数
1	AMERICA	アメリカ	306
2	CANADA	カナダ	88
3	AUSTRALIA	オーストラリア	87
4	ENGLAND	イギリス	81
5	INDIA	インド	57
6	BRAZIL	ブラジル	48
7	CHINA	中国	40
8	SINGAPORE	シンガポール	30
9	PHILIPPINES	フィリピン	26
10	GERMANY	ドイツ	23
11	NEW ZEALAND	ニュージーランド	21
12	FRANCE	フランス	18
13	TAIWAN	台湾	17
14	THAILAND	タイ	17
15	MALAYSIA	マレーシア	16
16	SRILANKA	スリランカ	16
17	INDONESIA	インドネシア	14
18	PERU	ペルー	14
19	SWITZERLAND	スイス	10
20	KOREA	韓国	9



学ぶことの多い

「外国人のためのそろばん講座」の展開

1986年6月に、科学技術万能の時代にそろばんの存立意義を外国の知識人層に問いかけることを目的にスタートした「外国人のためのそろばん講座」も丸32年が経過した。この間、94ヶ国から1182名の外国人がそろばんを学び、沢山の人が高い水準の技術を身につけてくれた。珠算では、初段から3級までの合格者は73名、4～6級合格者は340名に及び、暗算1級から同4級までの合格者は95名を数える。

講座での指導を通じて、機械・科学中心の現代社会でも、そろばんの存立意義と社会的貢献の度合いは高いことを実感した。コンピュータに代表されるITの発達・普及とそろばんの活用はたがいに共生することも学んだ。コンピュータの普及・使用からはいろいろの弊害・問題点が生じてくる。反面、そろばんは人間の基本的能力を磨き、身につけていく技術であり、そのトレーニングの過程でえられる忍耐力・向上心などは、正に教育の基礎・基本をなすものであり、機械化の弊害を薄めるものだということも理解できてきた。そろばん指導を通じて世界と文化交流を深める中で、国際親善を実践し、指導者の国際感覚も磨かれたに違いない。

コンピュータを中心にデジタル化が進む中で、そろばんの意味とそろばん教育の有効性を世論に説き理解を深めてもらうことは最重要課題である。開講以来、約270回を超えるマスメディア報道は、そろばん学習の大切さを正しく伝えるうえで大きなサポートになったと思う。

講座の長期展開は、指導に当たる先生方はもとより、協会組織全体の理解と支援で成り立っていることを銘記し、改めて感謝の意を表したい。



マスメディアの反応

IT、IoT、AIが多用されるコンピュータ化社会におけるそろばんの意味、そして、そろばん教育の意義を世論に説き、理解を深めてもらうことは喫緊の作業である。これらの作業は、珠算指導者の手であらゆる手段を通じて積極的に行うべきことは当然のことである。

ことにマスメディアの報道を通じてこれらの作業が行われることは、その考察の客観性、社会全般への浸透性の高さを考える時、最も望ましいことである。

32年間に及ぶ講座の展開に関連して行われた、マスメディアの各種報道は下記のような内容になっている。これは前述のようなマスメディア報道が持つ特性から、そろばん教育の更なる普及に大きなアドバンテージとなったのではないか。

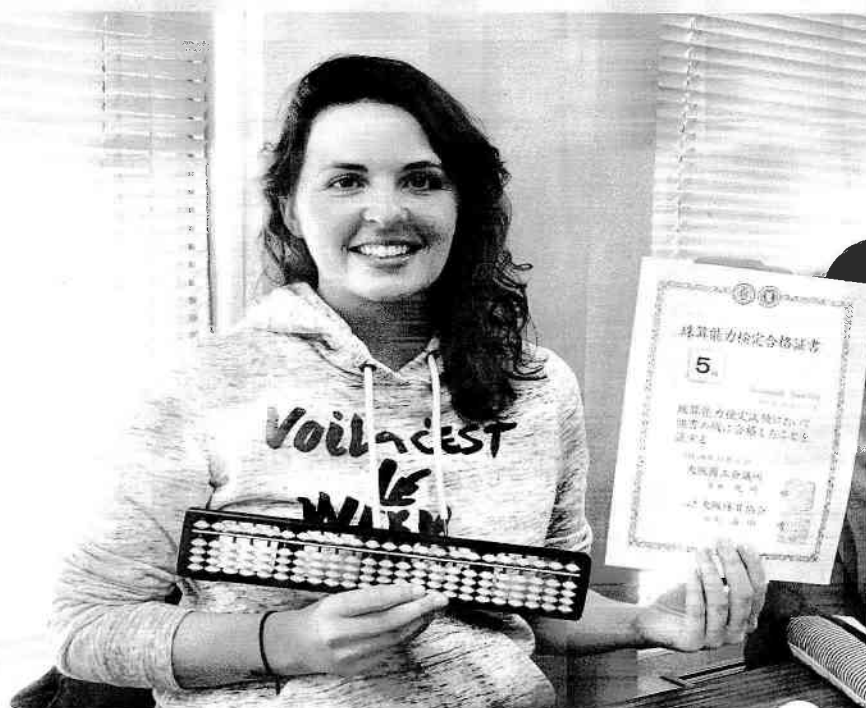
テレビ放映:68回／ラジオ放送:31回／日本字新聞:143回／英字新聞:25回／他

検定試験への挑戦

受講生たちは、じっくり基本を学んだあとは、6級の珠算検定から受験を始める。暗算は、4級からの受験となり、伝票算検定は、3級から受験を始める。

珠算では、初段から3級までの合格者は73名、4～6級合格者は340名に及び、暗算1級から同4級までの合格者は100名に迫る。

週一回の練習であるから、適量の宿題をクリアさせること、毎週休まないで練習に通うことに、上達の可否が問われることになる。受講者が、しっかりモチベーションを持続できるように、指導者は常に工夫と努力が必要である。



外国人のそろばん観

歴史、文化、言語、国籍の違う多くの外国人にそろばんを指導するなかで、そろばんには現代性、世界性、普遍性が備わっていることが立証されてきた。そろばんは日本に移入されて500年の歴史があり、その間、日本独自の社会、教育、経済活動を支えてきた大事な基盤の一つである。しかし、日本人のみならず、世界中の人たちにとっても、同じような働きをする、すなわち人間造りの核をなす大事な因子であることがわかってきた。

殆どの外国人学習者は高学歴の人たちであり、東洋の高度な異文化として、また特異な計算技術として、そろばんに高い評価を与えてくれている。

また、受講者のコメントからは、彼らがそろばん学習で獲得するもののトップスリーは、暗算力、集中力、チャレンジであることも見えてきた。





母国での広がり

以前、エジプト人でカイロの高校で教鞭をとる数学教師が大阪教育大学大学院で、数学教育法の研究のために留学していた。約半年、当講座に通い、3級まで上達し帰国。母国では、高校の放課後に希望者を募りそろばんを指導、生徒たちから好評をえたとのメールが届いている。

スリランカ人女性が、ネットで当講座を知り、ぜひ技術を習得したいとの強い申し入れがあり、3週間のそろばん指導者宅でのホームステイを実現。指導者の塾での指導と当講座での練習を積み、実力3級に到達し帰国。彼女は、自国で、自分の息子を指導し、3級の実力をつけ、後日家族で再来日した。目的は、母子での日珠連3級検定の受験であった。





出張授業ならびに集中授業

神戸国際交流センターから招聘され、ジャパンデイの催しとしてそろばん体験講座を開催。約30名の外国人が参加、そろばんの基本を理解してもらった。

当講座を受講していた同校外国人講師の紹介で、神戸女学院中学部・高等学部のオーストラリアからの交換留学生約80名に、そろばんの基本を指導した。指導者8名が出講し、効果的で楽しい授業となった。

箕面に開校した直後の大阪インターナショナルスクールで、毎年開催されるジャパンウィークを活用し、各学年にそろばん指導を行った。3年間にわたり訪問、そろばん授業を行ったが、きっかけは、大阪商工会議所国際部部長のセッティングであった。

追手門学院大学には、毎年交換留学生が来訪するが、担当の日本人語学教師の強い希望で、前後2回にわたり、十数名ずつを講座に受け入れ日本文化としてのそろばんを指導した。

昨年春、イギリスノーリッジ市ノートルダムハイスクール9年生21名の講座への来訪を受け、日本の伝統文化としてのそろばん授業を展開した。1週間の日本研修の一環であったが、近代日本を特徴づけている計算文化そろばんを理解してもらった。



各地から珠算指導者が講座見学に来訪

開講以来、各地から多くのそろばん指導者が講座の見学に来訪、意見の交換を行ってきた。講座の授業形態は、冒頭20分間は個別の読上算、続く40分間を四則計算、暗算、伝票算の練習に充てる。20分間のブレイクを経て、20分間の個別指導のあと、最後の20分間は読上算の全体練習で締めくくる。指導者が順に読み手を務める。原則ワンツーンワンの、受講者のレベルに合わせた、きめ細かい個別指導が行われる。

指導に当たる先生方の確保、指導のスペース、予算措置、外国人へのそろばん学習の勧めに関する情報伝達などを、長期にわたり継続してクリアすることは簡単なことではない。

見学した珠算関係者は、地元で是非講座を開設したいと思われるのであるが、これらの課題をどう解決するかというところで、案件先送りになるようだ。

なお、講座見学者の中には、そろばんの上級者で、将来海外でのそろばん指導に備えて講座見学を依頼してくる人もいる。





大阪商工会議所大西正文会頭の講座見学と懇談会開催

大商第22代会頭大西氏(平成4年～11年)は、当講座で多くの外国人がそろばんを学んでいることに強い関心と興味を持ち、学習風景を見学したのち、受講生と指導者の声を聴くために懇談会を開催し、外国人のそろばん学習の動機などに耳を傾けた。受講生の多くは教師や研究者で、PCの便利さを知り尽くしているにもかかわらず、アナログの典型と考えられるそろばんの魅力に取りつかれていることに、対話の焦点は絞られていた。

当時の徳山部長と大野専務理事の格別の理解と配慮でこの企画が実現し、多くのメディアもニュースで報道した。

異業種交流「波路(ハロー)会」への講師派遣

古くから続く異業種交流会から、講座で学ぶ外国人受講生を講話の講師に派遣してほしい旨の依頼が入った。神戸大学博士課程で学ぶミャンマー人男性、奈良先端科学技術大学院大学博士課程の研究者ブルガリア人女性、弁護士で大阪大学教員のブラジル人男性、大阪外国語大学(現大阪大学)研究生のブルガリア人女性などが、講師として朝食会で講話とプレゼンテーションを行い、自国の歴史や文化、風俗を紹介した。参会者とも積極的に意見交換を行い、国際文化交流のいいお手本を示してくれた。

講師を務めた外国人たちも、日本の各界で活躍する経営者たちと生きた議論ができ、大きな収穫を得たはずである。



優良生徒表彰式典での修了証授与と 新年弾き初め大会への参加

講座開講以来、新春に開催される生徒表彰式典で、そろばん学習に励む受講生が修了証を授与される。年度毎に、受講生の顔触れは大きく変わるが、インタビューで彼らが答えるそろばん学習の楽しさや効用については、殆ど大きなブレはない。集中力の向上、暗算能力の獲得、頭脳の活性化、精神の安定、日本文化の理解、受講生相互の交友などが、彼らがそろばん学習で手にする果実である。

正月3日に開催される新年弾き初め大会にも、受講生の外国人が招待され参加する。彼らは、日本人が年頭に、学業成就、家内安全、事業繁栄を祈願する伝統的な正月行事を、宗教の違いを超えて興味深く観察し、日本文化理解の一助にしている。そろばん上達を祈願し弾き初めを終えると、書初め会場で書道の手ほどきを受ける。1000年以上の歴史を持つ書道も、500年の伝統を持つそろばんとともに、彼らを日本好きにする大きな要素である。





講座の移動開催

講座開講二年目に、ネパール人受講生などの提案で、信貴山上での移動講座開講を行った。山上の玉蔵院僧坊での夏季練習会である。受講生と指導者約30名で日帰り合宿。学僧から法話を聴き、そろばん練習会の後、精進料理を楽しんだ。山上の寺院巡りとともに、外国人たちの日本文化に対する旺盛な好奇心を満足させるいい企画であった。

島根県仁多郡横田町(現奥出雲町)役場からホームステイそろばん交流の提案を受け、前後5回に渡り毎年11月初旬に横田町を訪問した。外国人受講生たちは、一人ないし二人ずつに分散、横田町内の民家にそれぞれホームステイした。初日と二日目に、雲州そろばん伝統産業会館で外国人そろばん講座を開催。現地の子供たちとの交歓会やミニ競技会も開催。町ぐるみの熱い歓待を受けた。町長の陣頭指揮で、雲州そろばん協業組合、横田町役場上げてのいい企画であった。

外国人たちは、長い歴史を持つ現地の砂鉄から作られる玉鋼の製造、日本刀の鍛錬、ヤマタノオロチ伝説などを学習し、日本の歴史と文化を堪能する旅を経験した。併せて、町内の民家で宿泊し体感した、現地の人たちのおもてなしの心は、外国人にとっては忘れられない貴重な学びの対象となった。

NHKラジオ特集番組「大晦日街の風景」で、外国人講座を生中継したいとの依頼が入り、心斎橋のホテル会議室で講座を臨時開催し、授業風景の生中継を行った。参加受講生の日程調整に苦労があったが、中継車を繰り出しての特別企画は、外国人たちにとり忘れられない思い出となったに違いない。



ラジオトークで外国人がそろばんを語る

MBS毎日放送ラジオ局から、外国人のそろばん学習者を交えてのそろばん談義を依頼された。神戸大学大学院生のブルガリア人女性、大阪大学スペイン語科教授のチリ人男性、大阪大学大学院博士課程のインドネシア人女性を帯同参加。IT時代の今、なぜそろばんを長期にわたり学習しているのか、そろばん学習のメリットは、などについて番組アナとディレクターから矢継ぎ早の質問。

外国人学習者は、そろばんで行う計算は、彼ら外国人にとっては想像もしていなかった斬新な計算法であり、各種の計算が自分の能力を全開にすることで、早く正確に解答に到達できることが、筆算や計算機では味わえない妙味だという。

そして、そろばんを使って行う計算は、アルゴリズムを目で確かめながら計算を進めることから、間違いを発見しやすく、重要なポイントが何かを推測する能力の獲得にも大いに役立つと強調し、1級合格レベルを目指したいと目標を明確に語った。





中国訪日視察団の講座見学

2015年4月、北京に本部を置くそろばんと書道を指導するフランチャイズ方式の教育機構訪日団が外国人講座の視察に来訪。同機構は、中国全土に6000校を展開し、6万人の指導者を擁するが、訪日団のメンバーは全員が指導拠点校の校長先生。

講座側は、日本の小学校教育におけるそろばん指導の現況、デジタル社会におけるそろばん教育の必要性和意義を語った。中でも、そろばん教育が脳の開発に効果があり、子供たちの情緒の安定と学習意欲の強化が期待できる実験データが、そろばん教育強化をアピールする根拠(エビデンス)になりうるという見解については、質疑応答と活発な意見の交換が行われた。

講座の開設以来、タイ王国の小学校教師3名が体験入学し、日本式そろばん指導法を学んでくれたし、イスラエル文部省指導主事の体験学習や、マケドニア文部省指導主事二人の体験学習も受け入れた。

各人からは、日本の安定した社会基盤と戦後の急速な復興と経済発展に、基礎教育にそろばん学習が義務付けられていることが、強く影響しているのではないかという感想が聞かれた。



JICAのトンガ王国派遣そろばん講師養成に協力

トンガ王国でそろばん教育が始まったのは1976年のこと。国王が、子どもたちが算数に興味を持つ方法の一つとしてそろばんに着目し、そろばん指導者の故中野敏雄氏と面会したことがきっかけ。翌年から使節団が派遣され、トンガの教員にそろばん研修を行うことになる。

1989年からはJICA(国際協力機構)も、そろばん指導者を派遣。現在、そろばんはトンガ国内全ての公立小学校で必修科目。人口10万人ほどの小さな島国が、そろばん教育に注力する理由は、国内の優秀な人材育成と、子供たちの算数への抵抗をなくすことが目的のようだ。外国人講座でも、いままで、派遣指導者4名の渡航前インターンに協力し、講師たちの指導力確保をサポートしてきた。





受講生のそろばん研究

講座の受講生メキシコ人男性大学院生(神戸大学博士課程)が、数学教授法の一つとしてそろばんを考察するとともに、スペイン征服以前のアステカ族とマヤ族の数学を合わせて考える研究を行った。4か月ほど講座に通ってそろばんの実技を学び、講座サイドからは資料の提供も行った。大学指導教官のサポートを受けながら、論文を完成させ博士号を取得し帰国。

ドイツ人の大阪大学蛋白工学研究所の男性研究者(PhD)は、約1年間、そろばん講座に通い3級の実力を身につけ帰国。すっかりそろばんの歴史や効用に魅せられ、ドイツでそろばんの指導と普及を行うための基礎指導教本(ドイツ語)編纂を行った。





タイ王国教育省視察団(島根県主導)との懇談

タイ王国では、以前から島根県下のそろばん指導者が同国初等・中等学校でそろばんの指導に当たってきた。横田町(現奥出雲町)や島根県も側面から支援し、大きな成果を積み上げてきた。同国教育使節団が来阪した折には、大阪市内の島根県事務所で、当講座の展開について内容の説明を行い、同国のそろばん教育の普及にどのような協力ができるのか、懇談を行った。

東広島市内のJICA中国で、タイ王国教育省教育使節団と、そろばん教育の普及と教育的効果について懇談を行った。島根県、横田町、大珠協の外国人そろばん講座が、タイ王国教育現場にそろばん指導を強力に導入するときに、それぞれがどのようなサポートができるのかについて意見の交換を行った。





当該講座の展開を関係部局に説明

公選第4代大阪府知事岸 昌氏の任期終盤に、知事公館に訪問し面談した。当講座の開講に至る経緯と目的、展開の状況を報告し、そろばんの教育的評価について懇談した。

当講座の展開に関しては、大阪府中西正人教育長とも懇談、開講以来の展開の経過と現況を報告し、大阪府内の教育力向上にそろばん学習を活用することの意義をつたえ、意見交換を行った。

第106代大阪市議会議長荒木幹男氏には、新春対談の形で当講座の内容と今までの経過を報告し、そろばん教育強化についての要望を行い意見交換を行った。

ホームステイで3週間の集中授業

ギリシャ人女性の MARIA さんは、副都心テッサロニキ在住のキャリアウーマン。ネットで見つけた当講座に短期集中指導を申し込んできた。珠算教師宅にホームステイし、3週間のそろばん漬け。加えて、3回の講座参加で、実力3級まで上達した。

スリランカ人の女性は、同じくネットで講座の存在を知り、短期集中指導を要請。同じく、珠算教師宅にホームステイし、3級の実力をつけ帰国。小学生高学年になった息子さんに伝達指導。2017年10月の検定受験に来日。見事高得点で3級に合格した。同伴した母親は、体調不良のため受験がかなわず、近々に再挑戦する。



受講生のさまざまな活動

島根県横田町(現奥出雲町)と雲州そろばん協業組合が主催する国際シンポジウムが松江市で開催され、ヤニック・ピシェさんとともにパネリストとして出席し、そろばんの国際化促進についての議論に参加した。

大珠協の特別研究会(於 紀州加太休暇村)で、米国人リチャード・サドウスキーさん他一名が講座を担当、外国人から見たそろばん学習の魅力や注目点を語ってもらった。

大珠協主催30年度珠算指導者講習会では、受講生ミキ・アーヴィドソンさんが講演。タイトルは、「国際化とAI時代の子育て」～その楽しさと難しさ／グローバリズムの中に潜む課題を考える～。そろばん指導者の資質向上により指導効率を高めることが目的の企画であったがこれ以外にも、今までたくさんの外国人受講生を指導する一方で、いろんなことを教えられ、たくさんのことを学ぶことができた。彼らのサポートを受けたことも、枚挙にいとまがないほどである。





《あとがき》

そろばんが持つ数多くの効用、教育的効果を、外国人にそろばんを指導することで鮮明にしたいという願いから、1986年6月に「外国人のためのそろばん講座」を開講し、早くも32年が経過した。その間、コンピュータに代表されるデジタル化が急速に進み、社会はIT、ICT、IoTという変革の波のうねりに翻弄されている。また、昨今は、AI(人工知能)をフル活用した技術革新が世界の仕組みを変えようとさえしている。

一方、エピソードに記したように、デジタル化の中で、今後、アナログを代表するそろばんの存在感が徐々に高まることは明白である。ただ、そろばん教育の必要性は、明快にその根拠を示し、粘り強く世論に訴え続けなければならない。そのことが、そろばんを後世に引き継いでいけるか否かの鍵になる気がする。

「外国人のためのそろばん講座」開催要項

■開催場所:大阪市中心区本町橋2-8 大阪商工会議所5階

大阪珠算協会事務局

■日 時:毎週土曜日 午前10時~12時 (2時間授業)

■対 象:外国人

■目 的:日本の伝統的計算文化「そろばん」の体験・習得

■費 用:受講料無料/標準型そろばん進呈/教材無償提供

■指 導:当協会会員指導者のボランティア指導(個別指導)

■問合わせ:ken_moritomo@nifty.com/Tel 090-1960-1682(森友)

「外国人のためのそろばん講座」講座の歩みとエピソード

発行日 平成30年10月1日

執筆者 森友 建

発行者 国際交流委員会

発行所 (一・社)大阪珠算協会

印刷所 (株)浜田秀英堂